



2007年度分野横断的演習の実施について

2008年 1月

内閣官房 情報セキュリティセンター
(NISC)

1 . 2007年度分野横断的演習の概要

1 . 日時 2008年2月6日(水)

2 . 場所 (株)三菱総合研究所 2階セミナー室 他

3 . 参加者

(政府)

内閣官房情報セキュリティセンター、重要インフラ所管省庁

(重要インフラ分野)

情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

(CEPTOAR)

7分野11CEPTOAR

(関係機関)

(分野横断的演習検討会有識者)

大林 慶應義塾大学教授(座長)ほか、検討会有識者

目的

IT障害発生時の重要インフラのサービスの維持・早期復旧に向けた現状の情報共有の仕組みの検証

(具体的な目的)

大規模なサイバー攻撃時に、被害を最小化する。具体的には、重要インフラ事業者のサイバー攻撃に対する準備機能と、重要インフラ事業者・所管省庁・NISCにおける情報提供機能及び情報連絡機能の検証を目的とする

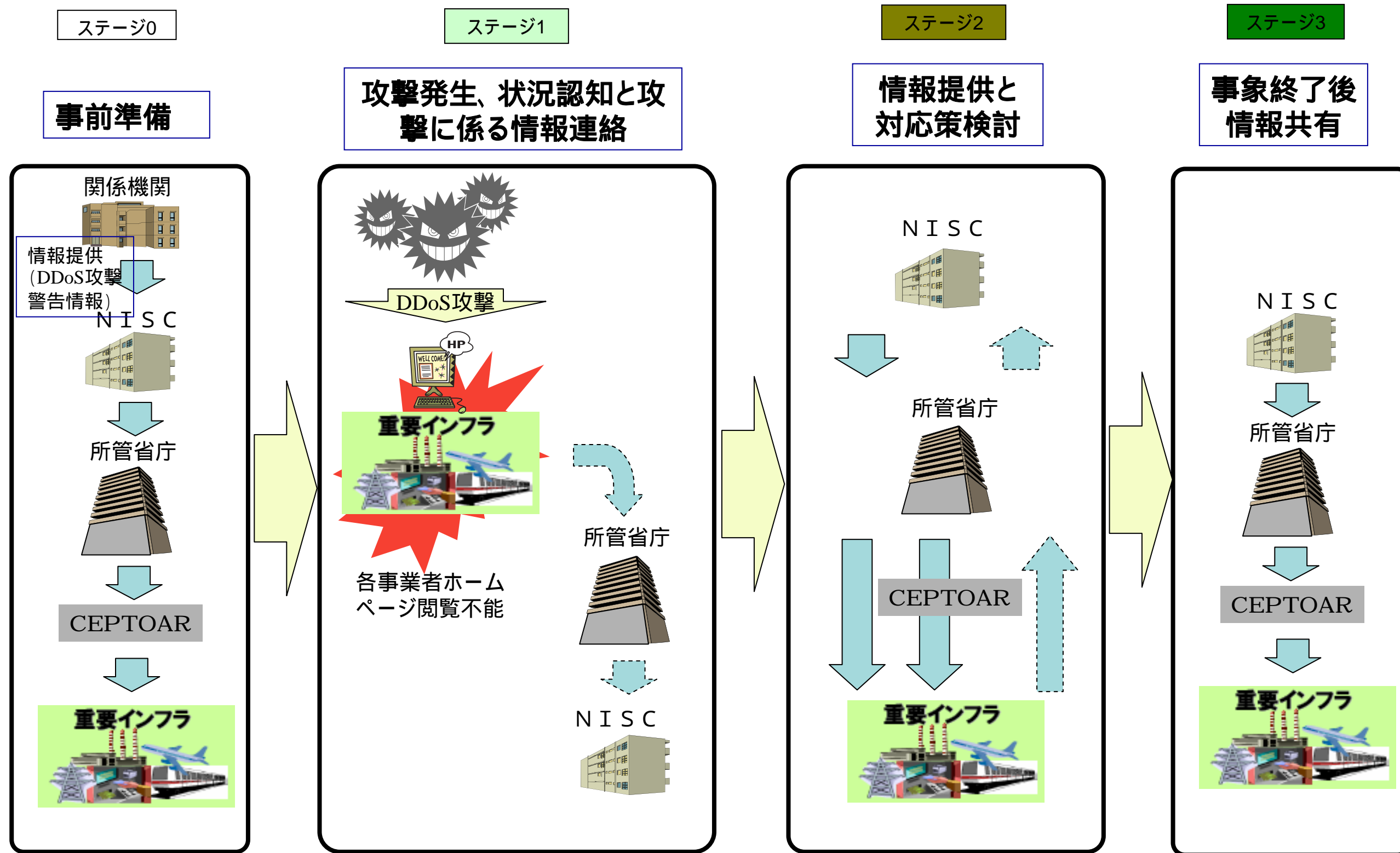
検証課題

- ・サイバー攻撃が発生した場合の当該重要インフラ事業者における関係者を含めた対応方法
- ・サイバー攻撃が発生した場合の当該重要インフラ事業者、CEPTOAR、所管省庁、NISC間の情報連絡及び情報提供の方法
- ・NISC、所管省庁から他分野のサイバー攻撃の情報提供を受けた場合の、各重要インフラ事業者における重要システムでの影響の検証方法
- ・事象収束後のCEPTOARを経由した情報共有の方法

事象概要

重要インフラ事業者のサイトが、ボットネットによるDDoS (Distributed Denial of Service) 攻撃を受け、数時間程度、ホームページの閲覧不能や重要システムの影響が発生したという想定で、官民における連絡・連携、情報共有の仕組みを検証

3. シナリオの全体イメージ



注) 情報提供に、CEPTOARを介するか否かは、各所管省庁が判断

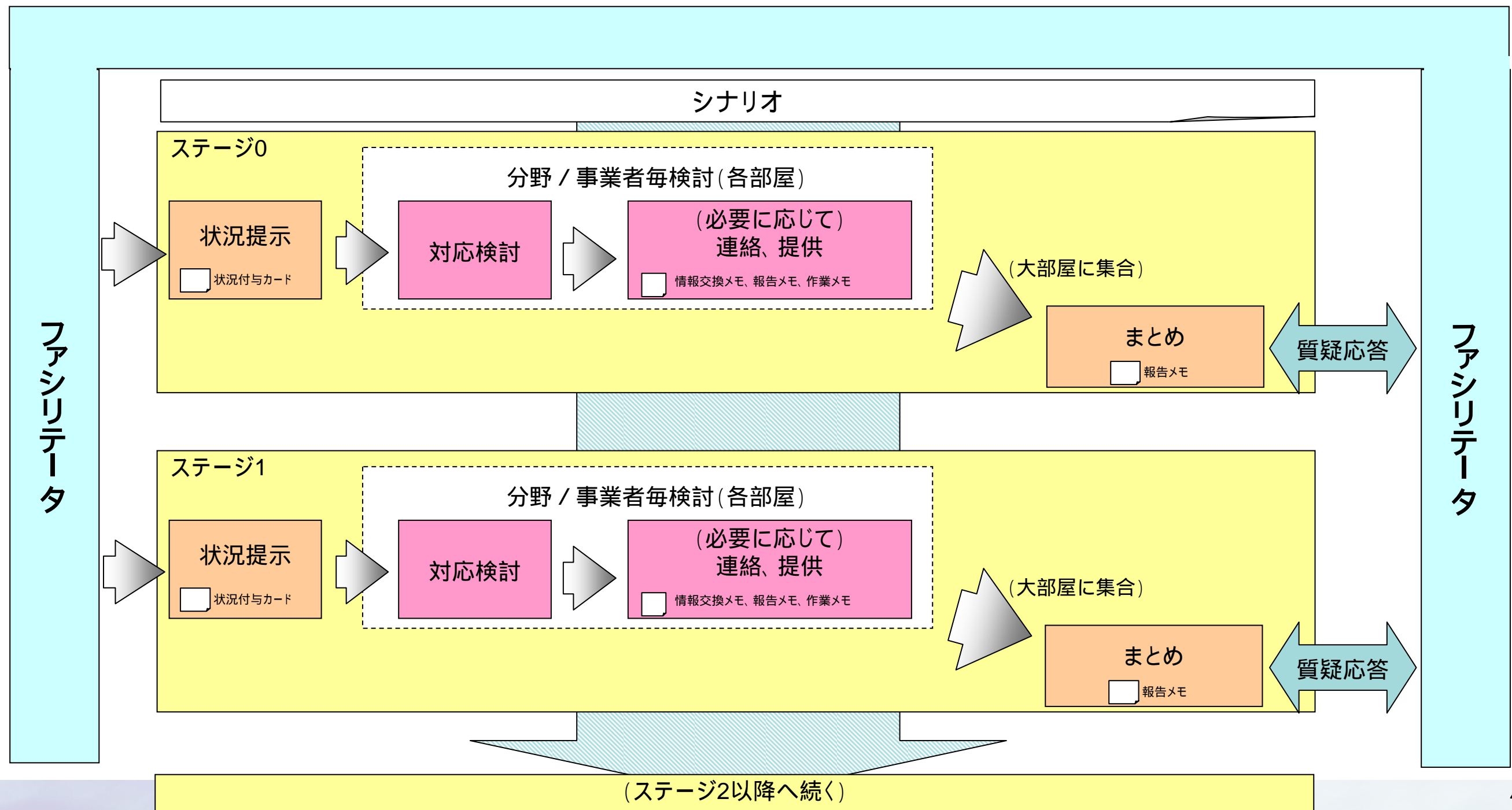
4 . 演習の進行イメージ

- 演習の参加者**
- 重要インフラ事業者(10分野)
 - CEPTOAR
 - 関係機関
 - 重要インフラ所管省庁
 - 内閣官房情報セキュリティセンター
 - ファシリテータ、事務局

演習は、各ステージにおいて、以下のように進行する。

- 1) 大部屋にて、ファシリテータは、プレイヤにシナリオに記述された状況設定を提示する
- 2) 各部屋にて、プレイヤは各分野毎または事業者毎に対応を検討する
- 3) 各部屋にて、プレイヤは必要に応じて、他のプレイヤへ情報連絡、情報提供を行う

演習の進行イメージ



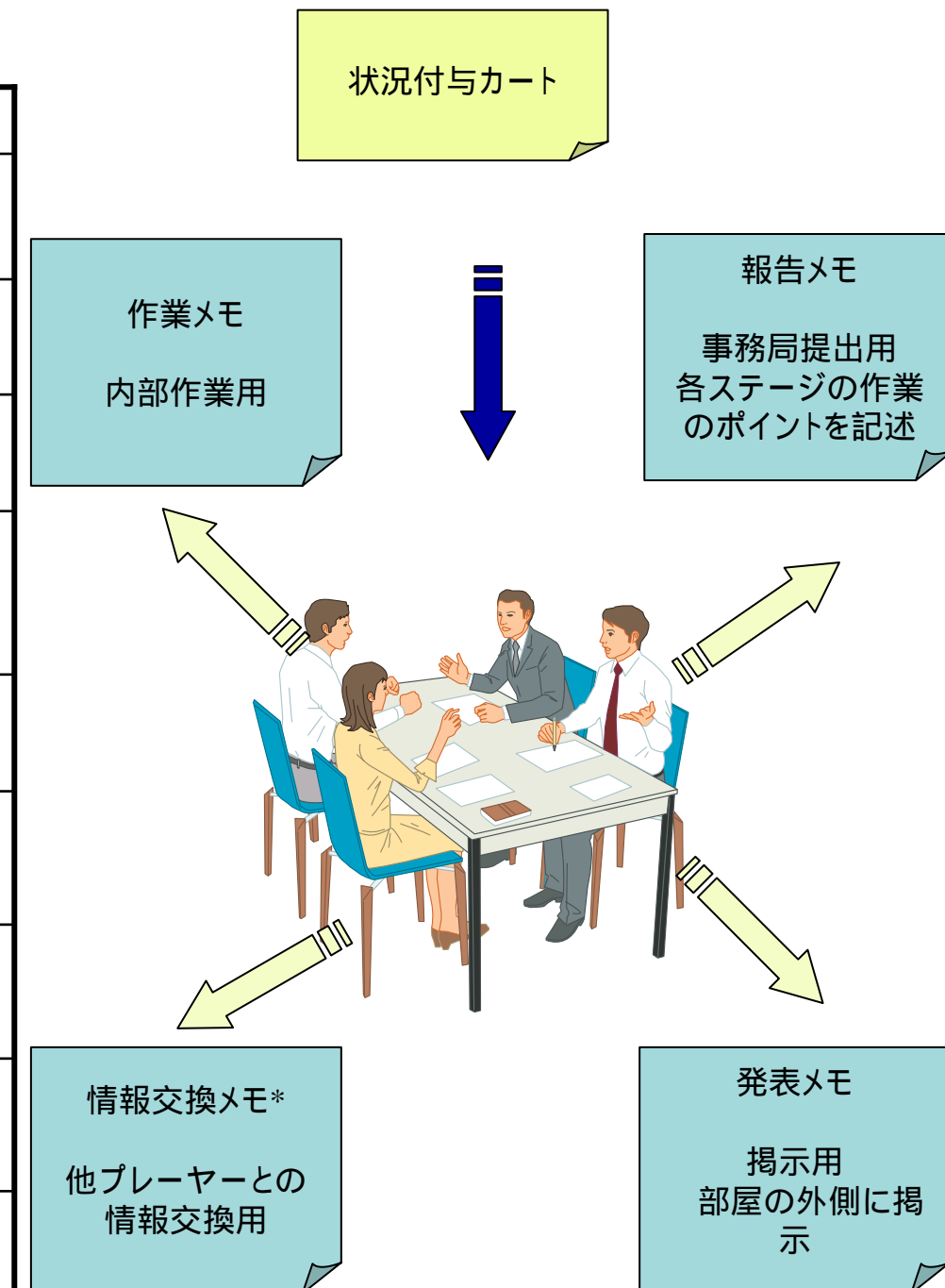
5. 参加者の行動及び演習進行時に使用するツール

参加者の行動

- 1)各ステージにおいて、状況付与カード及び情報交換メモ*を参照し、対応方法を検討する
- 2)状況付与カード及び情報交換メモには、事象に関する情報を記載する
- 3)作業は、作業メモ、情報交換メモ及び報告メモの作成を中心に行う
- 4)他機関との情報の交換は、情報交換メモにより行う

演習進行時に使用するツール

区分	概要
報告メモ	プレイヤーが各ステージにおける作業時に行った作業のポイントを報告するメモ。各ステージ毎にフォーマットを規定。各部屋に予め設置。
情報連絡メモ	重要インフラ事業者 所管省庁 NISCの流れで情報が伝達されるメモ。
情報提供メモ	NISC 所管省庁 CEPTOAR 重要インフラ事業者の流れで情報が伝達されるメモ。
事業者間交換メモ	重要インフラ事業者同士が情報の交換を行う場合に利用するメモ。宛先、発信元、内容、時刻、取扱指定 (red,amber,green,white)、交換手段 (口頭、電話、電子メール、FAX等) を記述。各部屋に予め設置。
作業メモ	プレイヤーが作業を行い、作業経過や作業結果を記載するメモ。各部屋に予め設置。
発表カード	プレイヤーが一般またはマスコミ発表を行う場合、発表内容及び発表手段を記述し、各部屋の外側に掲示。各部屋に予め設置。
状況付与カード	予め事務局が各ステージの状況を記述し、プレイヤーに配布するカード。
全体状況ボード	各分野の現在の状況を示すボード。セミナー室または大会議室に設置。
プレイヤーズマニュアル	各ステージにおける作業の方法を記載。各部屋に予め設置。



*情報交換メモは、情報連絡メモ、情報提供メモ及び事業者間交換メモの3種類。